

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17109011	CD26の自己免疫病、免疫異常症の先端治療法としての分子標的療法の基礎的研究	森本 幾夫（東京大学・医科学研究所・教授）	A
<p>DPPIV 酵素を含む 110kDa の膜蛋白 CD26 はヒト T 細胞共刺激分子として知られているが、そのリガンドは明らかにされていなかった。本研究は CD26 の MALDI-TOF/MS 解析を用いて CD26 分子の新たな結合蛋白として caveolin-1 を同定し、CD26 と caveolin-1 の相互作用により caveolin-1 がリン酸化され、NF-κB の活性化によるマクロファージ上 CD86 の発現上昇がもたらされることを明らかにした。また、CD26 分子の免疫疾患における意義の探索では、抗 CD26 抗体による GVHD マウスモデルでの抑制効果や関節リウマチ滑膜における caveolin-1 高発現が確認されている。</p> <p>これらの基礎的研究成果は得られているが、研究課題名や目的(3)にある CD26 及び caveolin-1 の臨床的意義やそれらを分子標的とした自己免疫病、免疫異常症の臨床応用研究に関しては具体的な検討がやや遅れていると考える。</p>			